

複式指導における年間指導計画案について―作成の方針・使用上の留意点―

- 令和6年度版小学校「国語」教科書は、大きな単元と単元の間に、言語・漢字の知識を整理する教材や、伝統的な言語文化に関わる教材を位置づけている。
- 教科書は、学年間で単元配列が大きく異なることのないようにしているため、複式学級においても大幅に並べ替えることなく学習を進めていけるものと考えられる。そこで、本年間指導計画案は、教科書の単元配列をいかして作成した。
- 本年間指導計画案作成にあたっては、二つの学年が同じ領域の学習活動を行えるよう配列することに主眼を置いた。そのため、言語・漢字の知識を整理する教材や、教材の趣旨から必ずしも学習の順序性が要求されるものではないと判断されるものは、必要に応じて学習時期を柔軟に入れ替えている。それによって、次のような効果をねらった。
 - ・ 共通の学習活動をできるだけ多くすることで、直接指導の充実を図る。
 - ・ 導入・展開・まとめなどの各学習段階で交流の場を生じやすくする。
 - ・ 上学年においては、下学年で習得すべき力が身についているかを復習する機会をもたせる。
- 各学期の区切れに関して、学習が学期をまたいでしまわないよう配慮した。
- とりわけ2・3年、4・5年学級においては、その授業時数の違いから、各単元・教材における時間数に違いが生じることとなる。本年間指導計画案は一つのモデルケースとし、そのような時間数の違いについては、他教科との組み合わせ、単元・教材にかかる時間数の調整など、学校や学級の実態に応じて解消し、ご指導いただきたい。
- 指導にあたっては、本年間指導計画案と合わせ、「学習指導書 総説編」に掲載の「構造と系統」（話すこと・聞くこと／書くこと／読むこと―説明的な文章・文学的な文章／情報）や、「年間指導計画・評価計画資料」（単式学級用）の「指導事項配列表」もご活用いただきたい。